

令和 5 年度 生きる力を育む「こども としょかん」事業

「出張こども としょかん」報告

1. 目的

公共図書館は、ほとんどの子どもにとって大人に連れてきてもらう場所であり、1人では利用が難しい。市町立図書館が、子どもの身近な生活圏へ本を届ける“アウトリーチサービス”について、県立図書館が伴走しながらその立ち上げや拡張時の支援のあり方を探る。

2. 取組の概要

①野洲市 商業施設での月 1 回（第 3 金曜日 10:00～12:00）の移動図書館の試行



◆ 6～8 月 アルプラザ野洲セントラルコート

移動図書館ワゴンの隣で、新刊絵本 100 冊程度を使った「絵本のひろば」と読み聞かせの実施（絵本は貸出も可）

移動図書館全体で 82 冊・184 冊・172 冊を貸出。

読み聞かせ参加者は 1 回あたり延べ 30 名以上

⇒9 月からは規模を縮小して実施（アルプラザ側の希望による）。

[参加者の声から]

- ・ 子どもが静かにできるか心配で、市立図書館はほとんど利用しない。
 - ・ 図書館で、気兼ねなく声を出して本を読んであげたい
- ⇒ 買いものの「ついで」に寄れる気軽さに加え、周囲の騒がしさがプラスに働いている。
米原市立図書館や草津市立図書館などで実施されている、子どもが騒がしくしても良い日、「キッズ・デー」などの取組と周知も有効と思われる。

②長浜市 周辺に公共図書館が無い地域において、園をサービスポイントとする試行



◆ 7～9 月（計 4 回訪問） よご認定こども園

お迎えスペースに新刊絵本と保護者向け図書のコーナーを設置。

7/12～の 4 週間でのべ 129 冊を貸出

園児への読み聞かせ、園所蔵絵本の整理に関するアドバイスも実施

⇒園の希望により、9 月までの予定を延長して配本。

[取組の中から]

- ・ 園と随時やり取りする中で、保護者に周知するための図書リストのデータの求めがあった他、随季節の行事や紙芝居も届けてほしい、等の要望を受け、効果的な選書が出来た。
 - ・ 読書に興味関心が薄い保護者に対しても、必ずアプローチができるのが強み
- ⇒園所における降園時の取組や、参観時などを活用することで、保護者への啓発活動が効果的に実施できる。

③湖南省 市内の学校に通う、外国にルーツを持つ子どもたちへの支援
市内の特別支援学校生徒が本と触れ合う行事への支援



- ◆今年度中随時 湖南省立水戸小学校
スペイン語・ポルトガル語・ベトナム語・中国語計 185 冊を貸出中
5 月下旬から 1 学期中の予定を延長して貸出中
- ◆各学期 1 回訪問予定 滋賀県立三雲養護学校石部分教室
湖南省立図書館の蔵書と計 200 冊余りを使った図書ひろばを開催。
ティーン向けの読みものや雑誌、一般書も展示

[学校での聞き取りから]

- ・ 日本語教室で、先生がブックトークをしながら子どもたちに紹介している。
- ・ 図書室にもともと数冊あったが埋もれていた多言語の図書も、手にされる機会が増えた。
- ・ 日本語を母語とする児童も興味をもって本を手にとっている。
- ・ 石部分教室には学校図書館(図書室)が無く、子どもたちがこのイベントを機に読書に親しむ様子も見られた。

⇒市町単独では、整備が難しい海外で刊行された本だが、一定のボリュームがあって初めて子どもたちの目が向く。手渡す人の存在も重要。

特別に支援を要する子どもたちには、その子 1 人 1 人に合った、個別の対応が大切である。

今後の「出張こども としょかん」実施予定

豊郷町…こどもと保護者が多数来場することが見込まれるイベントへの出張

オータムフェスティバルで、読書ボランティアと「絵本のひろば」開催

県立図書館単独…文化ゾーンわんぱく原っぱ内で野外としょかん

※学校司書や読書ボランティア支援プログラムについても、高島市と調整中。

3. これからの取組に向けて

- ・ 子どもや保護者の生活動線上に本を届けることで、より利用されやすくなる。
- ・ 子どもに限らず保護者への働きかけに関しても、園や学校という場を活用することで、読書への興味関心の度合いに関わらず、広くアプローチすることが可能である。
- ・ 移動図書館など限られた時間・限られた本による実践では選書が重要となる。
- ・ 子どもの読書習慣に結び付けるためには「継続性」が鍵である。
⇒継続には「本」と「人」が必須、管理の問題も生じる。

「子どもと本を結びつける人」「子どもの読書を支える人」への支援と連携が重要。

- ・ 子どもや保護者が、公共図書館を気兼ねなく利用できるための取組やPRが必要。
- ・ 特別に支援を要する子どもたちの読書環境については、別途実態把握を要する。